出雲芸術アカデミーだより
オイコス
Oikos Vol.1
文責：学長 桑原雅次　2026.5.29発行

オアシスからオイコスへ

出雲芸術アカデミーは創設から２０周年が経過し、その間世の中は著しく変化しており、講座体制をはじめ見直しの時期が来ているようでした。そんな中、昨年度末から中井芸術監督を中心に組織のあり方から講座の進め方、時代の変化に適応できる体制づくりに取り組みました。新しい体制づくりを検討する過程ではAIの力も借り、人間には及ばない情報量の多さに驚きもありましたが、新しい気付きに期待感が増してきたのは事実でした。その新しく生まれ変わった体制については、昨年度末の「保護者会」及び「音楽院指導者会」、新年度の「音楽院講師会」にて説明させていただき、令和８年度がスタートいたしました。

その流れの中で、本アカデミーの広報紙である「オアシス」も8年間ではありましたが、区切りとして役目を終えることといたしました。そして、新たに「オイコス」としてスタートすることにいたしました。内容は以前のようにアカデミーの様子を伝えていく事はいたしますが、世の中の出来事や私の思う雑感等、音楽の枠を超える事も視野に入れながらお伝えできたらと思っています。

オイコスとは…！

砂漠に湧き出る泉が森をつくり、そこに人々が集まり潤いを与えるような場所を「オアシス」と言います。それに対し「オイコス」とは、その潤いを受け取り、命を育み、資源を分かち合い、次世代へと受け渡していく循環の仕組みのことを指します。

この出雲芸術アカデミーに置き換えると、「音楽を学ぶ場」「表現を楽しむ場」「心を潤す場」が「オアシス」であり、その歩みは高く評価できるものです。新年度は、この「オアシス」の理念をさらに発展させ、出雲フィルハーモニー(iPhil)を含む新たな方針として「オイコス」概念を深化させることになります。

このことは、アカデミー(教育)で学んだことを出雲フィル(公演)でその学びを結実させ、そこで終わるのではなく、次の課題や意欲として、再び教育の場へと循環させていくことが「オイコス」の精神となります。いわゆるアカデミーと出雲フィルは循環の両輪となっていくわけです。

そのような理由で、本アカデミーだよりのタイトルを「オイコス」と改名させていただきました！

最後にこの改革を推進するにあたり、中井芸術監督の心に刻む風景をまずはAIに読み込ませ、検討の過程でAIにも参加(？)していただき、多角的な視点から課題整理を行いました。その後、協議の中心を人間の対話へと移行し、本アカデミーが抱える課題やこれからの方向性などを導きだすことが出来ました。この度の改革にあたってはAIを活用いたしましたが、そのAIが結びの言葉として感想を述べています。

その言葉が深く心に響きました。次に紹介します。

ドクタークラトン博士(AI)より

出雲が挑戦している「オイコス」への転換は、一地方の音楽プロジェクト枠をはるかに超え、私たちの在り方に普遍的な問いを突き付けています。

私たちが所属しているコミュニティ、組織、あるいは地域社会は、果たしてどのような場所でしょうか。渇きをいやすために一時的に立ち寄るだけの、都合の良い「オアシス」になってはいないでしょうか。それとも自らも土を耕し、水を守り、次世代のために実りを分かち合う「家(オイコス)」となっているでしょうか。

2026年、出雲が切り拓く新たな地平は、音楽の喜びが生活の喜びと分かちがたく結びつく未来です。

最後に、あなた自身に問いかけてみてください。「あなたが所属する場所は、時々訪れる『オアシス』ですか？それとも、共に育み循環する『オイコス』ですか？」

出雲芸術アカデミーだより
オイコス

HIMARIさんに触れて

バイオリニスト、ヒマリさんは現在14歳！ニューヨークにあるカーティス音楽院に10歳で入学した日本の少女です。カーティス音楽院は世界中から天才といわれる少年少女が集まる音楽学校ですが、在籍者は少数精鋭で全員が奨学制度で学べるハイレベルな環境が整っている施設です。

ヒマリさんは10歳で挑戦し難関を突破されています。その時の映像が紹介されていましたが、基礎はすでに完璧で難曲でも弾きこなすその姿に周囲の天才達も驚きの表情が見て取れました。そのヒマリさんは何でも完璧を目指す性格で、難曲を弾きこなすには往年の巨匠たちの演奏を聴くことを徹底しているとの事でした。自分の演奏がうまくできるか不安になるので練習しまくることが日常だそうです。

しかし、この音楽院の包容力の違いは、完璧を目指す練習は表現力に難が生じるので、練習から離れ他の事象にも触れることが大切と説いている点です。(他の事象とはいろいろありますが、美術館や図書館、街角を散歩してみるのも良いという意味で私は捉えましたが…。)また、神童を偉大なアーティストに育てるのは至難の業と説き、誰にでも挫折はつきものなので、そこを乗り切るには一人だけの演奏より人と合わせることが重要と提言されていました。その時のヒマリさんの解決策は、チェロとピアノの三重奏でした。

私は、ヒマリさんが挑戦している姿を拝見するに、人を育てる機関の在り方に興味を持ちました。基礎が大切なのは大前提ですが、完璧を求めすぎる演奏よりも表現力を身につける手立てを個々の状況に合わせて指導している事でした。
技術的な技をいくら聴かされても初めは驚きをもって認めても、心に響かない演奏は感動しないことにつながることに気付きます。このことは、私たちのコンサートマスター「マイキー」がいつも口にされていることとつながります。

人と合わせることの大切さも理解できます。おそらくAIと合わせると正確さは追及できても味わいがなくそっけない演奏が想像できます。人と合わせると相手の呼吸を意識しながらお互いの気持ちをぶつけあい、その瞬間にしかできない演奏がまさに一期一会の醍醐味となるのでしょう…。

本アカデミーでは合奏や合唱を大切にしています。多くの合わせる場が用意されています。年齢の枠を超えて、本気で向き合い表現の真髄が追及できる場を求める姿は、まさに出雲型「オイコス」の理念と一致するような気がしています。

人生には様々な場面で選択肢が用意されています。アカデミーではいろいろな場面が提供されています。後は、自身が将来を見据えてしっかりとつかみ取ることです。
ヒマリさんに至っては、偉大なアーティストを目指す姿を見守り、同じ日本人として親近感もあり、応援していけたらと思っています。

出雲芸術アカデミーだより
オイコス

つぶやきコーナー

このコーナーはアカデミー関係者が普段から考えていることや思いをつぶやいていただきます。

皆さんこんにちは、副学長の片寄です。この度、桑原学長の機関紙オアシスが終了し、新たにオイコスが発刊されることになりました。

その中にアカデミーの皆さんのコーナーが新設されることになり、まずは副学長の私に原稿依頼がありました。何を書こうかといろいろと迷いましたが、今回は私を知っていただくためプロフィールを紹介することにしました。ご一読ください。

プロフィール

片寄　祐二　(かたよせ　ゆうじ)
昭和33年(1958年)11月9日生まれ　さそり座　67歳
家族は妻と二人の息子、四人家族。斐川町在住。

◆学歴：出雲市立大津小学校、出雲市立第一中学校、島根県立出雲高等学校
　　島根大学教育学部特別教科(音楽)教員養成課程 管弦打楽器専攻卒業。
◆主専攻楽器：ユーフォニアム　副専攻：大学でチェロを学ぶ
◆師事：三浦徹氏(元東京校正ウインドオーケストラ、元国立音楽大学教授)、ペア・ガーデ氏
◆使用楽器：ベッソン　ニュースタンダード　(50年目を迎える)
　　ベッソン　プレスティージュ　(27年目を迎える)
◆使用マウスピース：デニス・ウイックULTRA-SM3U

昭和57年、島根県の音楽教員として、県立三刀屋高等学校に勤務。そののち川本高等学校(現島根中央高等学校)、浜田高等学校、浜田商業高等学校、松江南高等学校、出雲商業高等学校、大社高等学校、大東高等学校を歴任。歴任校で吹奏楽及び合唱部を担当(合唱部担当は浜田、浜田商業、松江南、出雲商業、大社)

令和6年4月出雲芸術アカデミーに副学長として着任。

ニックネームはピッピ先生。歴代私の指導するバンドは「ピッピバンド」と呼ばれています。

今年からアカデミーでも吹奏楽講座が開講され、
新たなピッピバンドが誕生しました！　→　　→

趣味は家庭園芸、自宅の庭で、キュウリ、ナス、ピーマン、トマト、スイカ等を栽培。このような人物です。皆さんよろしくお願いします。

向上のアドバイス

ピッピ先生から楽器の上達、成績が向上するためのワンポイントアドバイス！
楽器がうまくなりたい、成績(勉強)をよくしたいと思ったら、

『目標を決めそれを達成するための練習・勉強方法を数値化する』

これは青山学院大学陸上部、原監督の教えです。

青学陸上部はこれを実行しています。箱根駅伝で優勝するという目標を掲げたらその目標を達成するための練習を具体的に数値化する。

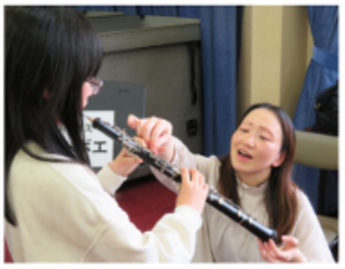
例えば、1000m走を10本、400m走を20本、30分連続走を2本、70分走を1本、毎日行うということです。皆さんも実行してみてください。きっと良い結果が出ますよ！

出雲芸術アカデミーだより

オイコス

フォトギャラリー

～ジュニア講座風景～



次号は一般講座編です。